
OUT ファイル名リスト or 'ファイル名文';

機能:

OUT に外部ファイル名のリストをつけて、作成されたあるいは修正された全ての TSP 変数を保存します。

使用法:

OUT に続いて、変数を保存しておきたい TSP データバンク名を与えます。ほとんどのコンピュータでは、これらはバイナリーの .TLB ファイルになります。

プログラムの OUT ステートメントの後で、TSP は修正したり作成した変数にマークをつけ、実行の最後でデータバンク・ファイルに保存されます。OUT ステートメントが実行される前に作られた変数で、その後修正されなかったものは保存されません。

OUT は別の OUT ステートメントがあるまで有効です。ファイルにデータを書くのをやめる場合には、引数なしの OUT ステートメントを書いて、以前のステートメントをキャンセルします。

OUT ステートメントで時系列データを保存すると、現在の標本内の観測値だけでなく、全系列が保存されます。後でその系列を使うときには、その系列を保存した時と同じ期種で用いなければいけません。

データバンクに保存される全ての変数は、実際には TSP の実行の最後でファイルに書かれますから、終了前に何かの理由で中断した場合は何も保存されません。

例:

```
OUT F00;
```

```
OUT 'E:¥CONSUME¥EXP'; ? PC の E:¥CONSUME ディレクトリー内に EXP.TLB を作成
```

KEEP コマンドでの例も参照して下さい。

アウトプット:

OUT は何もプリントアウトしません。正常に終了すれば、適当な変数が TSP の実行の最後でデータバンク・ファイルに保存されます。